

住高は 私の心の原点

経営者・指揮者 宮城 敬雄

【プロフィール】 高15期

1944年、大阪生まれ。一橋大学商学部卒業。イギリス・キングストン・カレッジ大学院でマーケティングを専攻。大手企業でのサラリーマン生活を経た後、父の創業した教育玩具の会社を継ぐ。1991年、高輪プリンツヒェンガルテン創設。そこで、クリスマスショップ、レストラン、ブライダル3事業を展開する。50歳から指揮を学び、2000年にはスロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団を指揮、ヨーロッパでのデビューを果たし、高い評価を得る。その後、ハンガリー放送管、サンクトペテルブルグ管、チェコナショナル管、東フィル等、国内外の50回を超える指揮をし、特にブラームスの演奏が注目を浴びている。



住高を卒業して早や50年経った。音楽、美術、野球、フォークダンスをすることが大好き。化学、物理、数学、英語、古典、漢文が大嫌い。そんな偏りが、私の通信簿にはっきりと記録されている高校生だった。でも、のんびりした自由な校風の住高で穏やかに青春時代を過ごすことが出来た。

それから50年、大きな会社を3つも転職、25年前には父の会社を継いで、何とか今日まで元気で仕事と音楽の道に励んできた。そんな私に住高生に贈るメッセージを依頼された。光栄なことであるが責任重大である。これからの日本を背負っていく住高生に短いメッセージで伝えるのは、なかなか難しい。



スロバキアフィルとウィーン楽友協会大ホールにて（2001年）

戦後日本は経済偏重、利益追求高度成長至上主義に走った結果、とり返しのつかないことを起こしてしまった。原発事故である。それは東日本だけの問題ではなく、日本全国はおろか、地球に大きなダメージを与えている。想定外という言葉は、人間の愚かさを示したものではないのか。放射能の恐ろしさは、世界の誰よりも日本人が知っていたはずではないのか。人類は平和を求めていながら戦争をくり返してきた。大地震、津波も長い歴史の中で幾度も凶暴な牙を剥いてきた。歴史からの教訓をいかせない人間の愚かさである。技術革新は私達の生活価値観を変えてしまった。果して、社会は豊かになったのか？確かに私達の生活は便利になり快適になっ

た。しかしそれに反し、人間本来の持つ豊かな感受性、創造する心、人を、社会を、国家をそして地球を思いやる心が失われ、何でもお金さえあれば、自分の物欲が満たされる中でそれが幸せであると勘違いしてきた。この大地震と人災によって、ようやく少しだけ目が覚めたようだが。

世界中、明日が確実に平和な場所はどこにもない。天災、異常気象、経済危機もテロもいつ起こるかも知れない。そんな不安な中でどうこれから生きていくのか。人には自分で行動し、体験し、失敗を重ねる中でしか真実は見えてこないことがある。溢れる情報、メディアに翻弄されず、自分の目で確かめ五感で感じとり、自分で考えぬいて一歩一歩一生懸命峠を目指して歩き続ける。峠に立って初めて次に登る山が見えてくる。それが生きることであり、その達成感に幸せを感じ、感謝の気持ちが湧いてくるはずである。夢をいつも抱き、自分の力を信じ、生き抜いて欲しい。

私は自分の人生68年を振り返り、たくさんの人々に支えられ、やっと8合目までたどり着いた。感謝の気持ちで一杯だ。これからは、若い人達が8合目まで登れる様できる限りの力を尽くしていきたいと思う。その一つが、母校住高がよりグローバルな人材養成の教育の場となれる様なスキームを提案し、サポートが出来れば少しの恩返しが出来ると思っている。頑張れ住高！頑張れ日本！



東京フィルと東京オペラシティアンサンホールにて（2007年）